
君であるということ

スクナヒコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君であるということ

【Nコード】

N8580B

【作者名】

スクナヒコ

【あらすじ】

作者が友人に向け贈る文です。すなわち君で、僕でもあります。何を感じるかは、貴方しだい……

(前書き)

この文を全ての人に贈る

世界中の人達は認め合って生きている

これは僕の座右の銘、というか信念である

どんなに嫌いな人間だろうと、確かに人には認められるものがあるのだ

ただ、それを認めようとしな——即ち嫉妬

認識しない——無関心

認め確かめようとする——闘争

なかでも、無関心とは最も忌むべきだろう

昔読んだ小説に、『究極の悪意』というものが書かれていた

ライトノベルスであったその物語には、『究極の悪意』として世界に致死性の高い毒を流そうとする敵役がいた。

しかし、そんな相手に主人公はこう言ったのだ

『そんなのが究極の悪意だと?』

正直、寒気がした

僕はこういう本で感情移入しやすいのだが、それとは違う。

知っていて、知らない事を突きつけられたきがした。

『究極の悪意とは、その相手に対する全否定をいうのだ』

そこで、物語に出てくる敵役に深い因縁を持つ少女が突如登場するのだ。ヒロインであるはずの少女が『鬼』として……………

『あんたの存在なんか認めない!』

『消えろ!消えろ!!消えろおお!!!!!!』

チェーンで殴りにかかる少女を、作者は残酷にも正確に描写していた

それは執念だった

それは悲しみだった

それは——憎しみだった

——恐らく、作者の伝えたかっただろう思いは、深く僕の心に刺さった。

『今、その少女がしているのが究極の悪意だ。存在を認めぬ。生まれてきた事も許さない』

そるはまさしく、『究極の悪意』だろう

まあその後はライトノベルスらしく、魔術で『存で』『存在』を消すとかするのだが

これを読んだ君は何を思うだろうか？

シカトと呼ばれる行為がこれに一番近いかもしれない

相手のなにかを認めないというのは、相手に対する全否定ではないだろうか？

なにより、『認める場所』すら見つけてもないのに、その人の印象だけで、事実だろうと、嘘であろうと、その人をマイナスとする言葉を放つ事は許されるのだろうか？

否

否だ

僕はそれを許さない。

たとえ神であろうとも、僕はそれを許しはしない

許していい道理がない

なぜならば、それこそが世界の『悪意』の根源の一つであると疑わないからだ

……しかし、なんでこんな話したんだろ？

君なら分かるだろ？

僕は君という人間を『認めて』いるからこそ怒りを覚えているんだ

君は君だ。

他人なんか関係ない

だれにも『認める場所』はあるんだから

(後書き)

実際は、現実の友人が彼をよく知りもしない先公に『マイナス』な事を言われて、激怒して書いた文です。

Mixiの日記に書いたんですがね？

——むしろ、これこそ人が知るべき事の一つではないだろうか？——と考えてしまいました

ええ、浅はかかもしれません

苦情、反論あるでしょう

しかし、少しでも疑問に思ってくださいたならば

私は貴方に最大限の『ありがとう』を言わせて頂きます。

あと、他の作品もよろしくお願いいたします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8580b/>

君であるということ

2010年10月11日12時19分発行